




ウィリアム

お前はとても
賢くて
見込みがある


私が推薦して
あげるから
学校に通いなさい



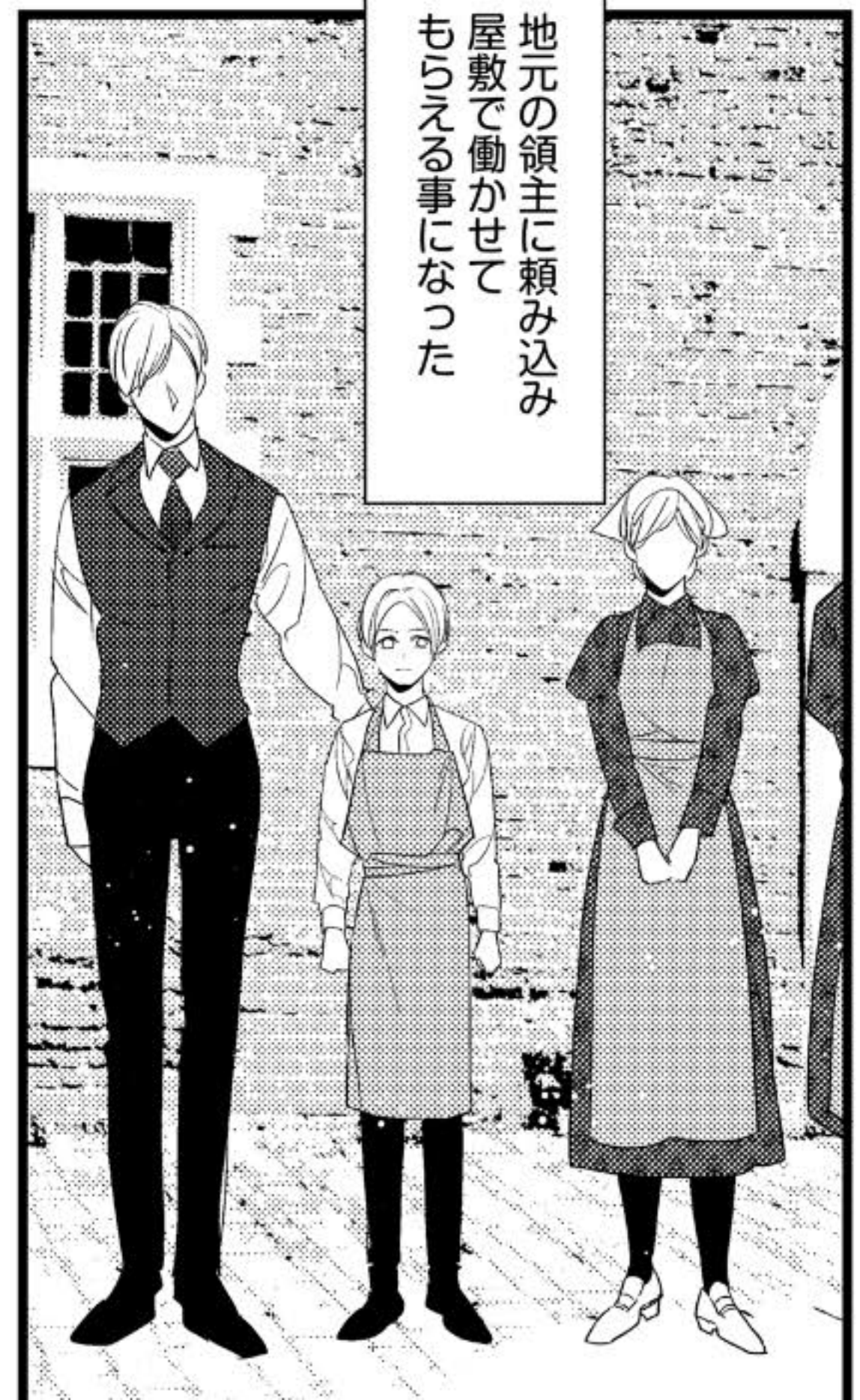


感謝します


旦那様



親代わりだった
叔母が病死して
孤児院へ送られる
はずだった俺は



地元の領主に頼み込み
屋敷で働かせて
もらえる事になった



ギリギリで首の皮が
繋がった理由は
「村の子供の中で
一番小綺麗だったから」

あらゆる事を覚悟して
屋敷へ入ったが

予想に反して
主人は良識があり
聡明な人物だった

よくやった
ウィリアム！

まさか
主席を獲って
くるとは…

恐れ入ります

私の眼に
狂いはなかった

褒美に
これをやろう

金というのは
争いの種にもなるが

持っている
良い未来へ導いて
くれる力もある

国王が即位された
時に作られた
記念の金貨だ

…！



ありがとうございます
ございます

エリオツトにも良い
刺激になるだろう

よい友人に
なってやってくれ

恐らくエリオツトは
今以上に俺を
疎ましく思うだろう

…はい

そんな事より
この恩に
報いなければ



生きている意味は
無いとさえ思った

よっせー



返して
ください！

やっぱり物を
ねだるために
勉強してたのか

おかしいと
思ってたんだ

こんなもの…

違います…！



エリオット様!!



自分が特別だとも
思ったか?



世界はお前の事なんか
見てないんだよ!



お父様に媚び売って
オネダリしたのに
残念だったなあ

悔しいか？

いつも俺の事
見下したように
無視しやがって



俺に跪いて
お願いしてみろ

ウィリアム！

そしたら俺が
お前に恵んでやる

……

この時

自分の理想へ
近付くためには

必ずしも清廉である
必要はないと理解した

